東日本大震災

ともしび会ニュースレター

東日本大震災　ともしび会　事務局
960-8585 福島県福島市花園町3番6号
☎024-531-6805　Email:s-soko@ssg.ac.jp

早いもので、2011年3月11日の東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故から5度目の春を迎えました。この間、ともしび会の皆様には述べ25名の学生と児童をご支援いただきましたこと改めて深く感謝申し上げます。4年前に被災し、家や家族を失い、多くの経済的不安を抱え、喪失感と共に将来の夢もあきらめざるを得ないような状況下にあった子どもたちは皆様のご支援により生きる力をいただき、悲しみを乗り越えることができました。そしてこのたび8名の短大生が無事社会へ巣立つこととなりました。希望に胸ふくらませ、故郷の復興を誓いながら挨拶に来てくれた彼女たちの晴れやかな笑顔には事務局一同胸が熱くなる思いでした。そして支援していただいている全員からご支援いただいたすべての皆様への感謝のお手紙が寄せられました。彼女たちの感謝の思いをここにお届けします。

ともしび会の皆様こんにちは。二年間の暖かいご支援のおかげで無事、卒業することができました。本当にありがとうございます。初めて親元を離れ、不安と期待を胸に入学してから早二年がたちました。栄養士の資格以外に私は栄養教諭の資格取得も目指したこともあり、勉強や学校生活で忙しい毎日ではありましたが、たくさんの先生方、そして生涯付き合える友人たちに出会うことができました。この二年間は今まで経験したことがないこと、自分がどこまで自身の力で行動できるか試すことができました。これができたのは皆様の支援があってこそです。高校までは親に甘えてばかりだった私ですが、この短大に入学したことで、一回りも二回りも成長できたことを実感しております。四月からは仙台の病院で栄養士として働きます。短大で学んだことを活かし、社会貢献していきたいです。二年間本当にありがとうございました。みなさまからいただいたお気持ちを忘れず、日々励んでまいりたいです。そして私が受けていた支援を今度は私自身で何らかの形で返していきたいと思います。ありがとうございました。　桜の聖母短大食物栄養専攻　卒業生　①

いつもご支援いただきありがとうございます。このたび無事に進級できたことをご報告いたします。本当に皆様のご支援があってのことなので本当に感謝しております。これからも学生生活に励んでいきたいです。又ご支援いただければ嬉しく思います。

桜の聖母短大食物栄養専攻　二年生　②

ご支援いただいたすべての皆様

皆様、二年間に渡る温かいご支援大変ありがとうございました。先日、桜の聖母短期大学キャリア教養学科を無事に卒業できましたことをここにご報告いたします。自分に自信を付けたいという理由から短大進学を決めましたが、この二年間多様な学問に触れることで自らの一切の過去を受容し前を向けるようになりました。更に前を向けるようになったことで、社会と自分のつながりを考えられるようにもなりました。些細なことかもしれませんが、これまでそのような感覚を身に着けていなかった私にとっては大切な学びの一つです。このような経験ができたのも皆様のご支援があったからこそなのだと痛感しております。改めて私はたくさんの人の優しさの上に生きているのだと思い知らされると共に、私も皆様にしていただいたように人に手を差し伸べられる人へと成長しなければならないと考えております。そのためにも学ぶ姿勢を忘れず、他者との関わりを大切にしながら生きていきます。最後に、学ぶ機会と成長の場を与えて下さった学長先生始め諸先生方、二年間たいへんお世話になりました。多くのご心配をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。短大生活で培った生きる力を大切に、自分で道を切り開き、強く生きていける人を目指し精進します。貴重な2年間をありがとうございました。

桜の聖母短大キャリア教養学科卒業生　③

この度は、東日本大震災ともしび会支援対象者に採用していただきまして、誠にありがとうございました。私は平成二五年から本会支援金を受けさせていただいている桜の聖母短大キャリア教養学科二年生です。本支援金は生活費、授業料の一部とさせていただきました。先日は皆様の支えにより無事卒業いたしましたこと、貴会ならびに貴会員の皆様に深く感謝申し上げます。高校一年の終わりの三月十一日に私が住む福島県南相馬市は東日本大震災により被災地となりました。漁業が盛んである相馬市で、両親は漁業を営んでおりました。この度の震災により、船は全損し、職を失い、経済的な見通しは決して明るいものではありませんでした。このような状況の中で貴会の支援金は将来に対する糧となりました。安心して学業に専念できたのもひとえに皆様のおかげであり、皆様の温かいご厚意が金銭面だけに留まらず、精神的な支えとなっておりますことを日々実感しております。4月からは関東方面でアパレル職に就きます。社会人としての自覚を持ち、日々精進してまいります。これからもより一層夢に向かって励んでゆく所存であります。この度は本当にありがとうございました。

桜の聖母短大キャリア教養学科卒業生　④

私は平成二十六年十一月から東日本大震災ともしび会様から支援を受けております。本日は今日までのご支援に対し、御礼申し上げたく進級のご報告も兼ねて筆を執らせていただきます。

この1年間、及ばずながら学業に学校生活にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみますと至らない部分もございますが、自分なりに有意義な実り多い学生生活を過ごすことができました。私は短期大学を卒業後、製菓専門学校に入学する予定です。それは、昔からの夢であるパティシエールとして就職するという目標のためです。震災前はただただ美味しいお菓子を作りたい、そしてそのお菓子で皆を笑顔にしたいという心持ちでした。しかし、震災を経て4年の月日が流れた今も復興が必要な福島を盛り立てて行きたいと考えるようになりました。目標を達成し、パティシエールとして独立した後は福島の農産品を使ったお菓子を作り、微力ながら復興のお手伝いをするという新たな夢ができたのです。今までと残り1年間勉学に打ち込むため、夢のために支援金は大切に使わせていただき、参考書やレシピ本の購入、専門学校への交通費など使用しました。支援金がなければできないことがいくつかありました。これからもご寄付を送って下さった多くの方々に恥じないよう残り1年を過ごしていきます。

世情厳しき中にもかかわりませず、支えて下さった東日本大震災ともしび会の皆様、ご寄付を下さった多くの方々、そして支給業務に携わって下さったすべての皆様に心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。皆様の益々のご発展をお祈りしつつ。御礼まで。

桜の聖母短大食物栄養専攻　2年生　⑤

2年間の長きにわたりご支援をいただきまして誠にありがとうございました。この3月、短大の課程を終え、無事卒業することができました。この2年間、恥じぬよう、及ばずながら学業に学校生活にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみると、至らない部分もございますが、自分なりに有意義な実りの多い学生生活を過ごすことのできた2年間でした。そして、精神的にも安定した生活を送ることができたのも、支援してくださった方々のおかげです。心から感謝しております。

4年前の東日本大震災で、私は産まれたころから住んできた地元を離れ、この土地に避難してきました。多くの物を失い、慣れない生活に苦戦している中、この桜の聖母短大に入学したことを今でも鮮明に覚えています。「知り合いのいる大学にすればよかった」「仲良くしてくれる子はいるか」と不安になっていたこともありますが、たくさんのことを学び、たくさんの人に出会うことができました。きっとこの経験や出会いは一生の宝になると思います。今後、もし災害や苦難に直面している方を見かけた時には精一杯の支援をしていきます。本当にありがとうございました。

桜の聖母短大キャリア教養学科卒業生　⑥

ごきげんよう。東日本大震災から早くも4年がたちました。4年前の私を振り返ると震災直後は生きることに必死で親戚の安否を心配したり、普通の生活に戻るために一生懸命でした。少し環境が落ち着いてからはこれからどうしたらいいのだろうと将来への不安を抱えながら生活をしていました。

それから2年後、受験生となり、桜の聖母短期大学へと入学することができました。短大での2年間は本当に短く、たくさんの学びと思い出が詰まった濃い二年間でした。先生と友達に支えられて、授業や委員会活動、就職活動など頑張ることができました。そして今年、無事に桜の聖母短大を卒業する事ができました。

私の成長を願い、祈りをささげてくれた皆様、寄付をしてくださった皆様に恩返しをしていく生き方とは何か考えました。まずは社会人として健康に働き続けること、そして出会った人たちに笑顔で接して感謝の気持ちをいつも忘れないことだと思いました。常に誰かに支えられて生きていることを思い出して社会で頑張りたいと思います。

私は、今も復興の途中の福島に就職します。私の働きが少しでも福島の復興に繋がっていけばいいと思っています。

桜の聖母短大生活科学科　福祉こども専攻
こども保育コース卒業生　⑦

春寒次第に緩み、一雨ごとに春の息吹が立ち込めてまいりました。ご一同様にはますますご壮健のことと存じます。

去る3月7日、娘が桜の聖母短期大学生活科学科食物栄養専攻所定の課程を終え、無事卒業することができました。保護者である私が東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所事故に伴う勤務先閉鎖、退職となり、経済的な理由から娘の進学を諦めさせずに卒業を迎えられたことは万感の喜びであります。これもひとえに東日本大震災ともしび会様からのご支援のおかげであり、いくら御礼の言葉を並べても足りるものではございません。

昨年の十月に漸く再就職することができ、再出発を果たしたばかりですので現状ではこの度のご支援に対するご恩返しがなかなかできない状態ではありますが、いずれ何らかの形でこのご恩に報いたいと思っております。

本来であれば直接お礼を申し上げるべきところではありますが、書面でのお礼とさせていただきますことご容赦お願い申し上げます。末筆ながら皆様のますますのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

桜の聖母短大食物栄養専攻　卒業生父　⑧

３月７日、桜の聖母短期大学生活科学科食物栄養専攻を無事卒業することができました。入学前は東日本大震災と東京電力第一原子力発電所の事故によって父の勤務先閉鎖、退職となり、経済的な理由から一時は進学をあきらめようかと思っていました。しかし、東日本大震災ともしび会様からの支援のおかげで何事もなく卒業できました。本当にありがとうございました。桜の聖母での２年間はあっという間でした。せっかく支援していただき進学できたのだからたくさんのことにチャレンジしようと思い、また少しでも学校の力になりたいと思い、食物栄養のクラス委員長に立候補しました。高校生までの私は人見知りが激しく皆の前に立ち、引っ張っていくような性格ではありませんでした。しかしこの２年間でクラスのみんなの協力や先生方の支えもあり無事クラス委員長をやりきることができました。このことは私にとって大きな自信になりました。きっと桜の聖母に入学していなければ経験できなかったことだと思います。入学前に学校のホームページを見た時に書いてあった「なりたい自分に出会える」というフレーズにあこがれて入学しましたが、本当になりたい自分を見つけることができました。このように濃く充実した２年間の大学生活を送れたことはこれから社会に出ていく自分にとって本当に大きな財産になると思います。そんな経験を支援していただいたともしび会様には本当に何度お礼をしても足りないくらいの感謝であふれています。

このご恩はお金では返すことができないのでこれから社会に出て桜の聖母短期大学を卒業したことを誇りに持ち、精一杯社会に貢献していくことでご恩返しとさせていただきたいです。また、愛と奉仕の精神に基づき困っている人がいたら手を差し伸べられるような人になりたいと思います。最後に進学をしたくても家庭の事情により諦めるしかないと思っていた私にかけがえのない仲間や先生に出会い、多くのことを経験し、大好きな自分に出会わせてくれたともしび会様、本当にありがとうございました。

桜の聖母短大食物栄養専攻卒業生　⑨

この度、二年に亘るご寄付を送って下さり誠にありがとうございました。皆様の温かいご支援の甲斐もあり、二年間無事に勉学に集中し、励むことができ、晴れてこの桜の聖母短期大学を卒業することができました。今日に至るまでのご支援に改めて感謝申し上げます。

東日本大震災から今月の十一日で早いことに４年が経とうとしています。震災当時の私はまだ高校一年生であり二年生になるにむけて期待していた頃であったと思います。今でもあの当時の混乱した日常生活や原発に対する不安や今後どうなっていくのだろうと考えていた日々を思い出します。そのような状況下で、家が全壊するのと同時に、両親が農家を営んでいた私の家は一気に収入が不安定になりました。両親の仕事が徐々に軌道に乗り始めたまさにその時に、風評被害等で生活が厳しい状況になってしまいました。不運なことに既に両親が離婚していたこともあり、私たちの生活はどうなっていくのだろうと悩んでいた時もありました。大学進学をどうするか考えていたその頃にこの桜の聖母短期大学で震災の被災者を対象に支援してくださることを知り、諦めかけていた進学という夢を実現することができました。そして、高校に続いてさらに学びたかった英語や様々な学問を二年間継続して学ぶことができたことは皆様のご支援のおかげだと思っております。誠にありがとうございます。現在は春から社会福祉法人の事務職として働くにあたり、パソコンに関する資格取得の学習や一般常識のビジネスマナー本を読むなどしてスキルを磨いているところです。また、技術的な面だけでなく、笑顔あふれる知的な女性になることを目指し、様々な本を読み、視野を広げて多角的に物事を考えられるよう、大学を卒業しても日々学んでいくことを大切にしたいと考えております。皆様のご支援があったからこそ就職することができました。今後は皆様がご支援くださったように私も社会に貢献できるよう日々精進してまいりたいと考えております。多くの方々のお力を借りてここまで来られたことを忘れずに感謝の気持ちをもって仕事に励んでいきたいと思います。そしてある程度の収入を得ることが可能になったら、次に続く後輩のために微力ながら私も支援の輪に加わりたいと考えております。最後になりますが、本当に２年間皆様のお力をお借りすることができ、大変感謝しております。誠にありがとうございました

桜の聖母短大キャリア教養学科卒業生　⑩

この度はたくさんの方々からご寄付を送っていただきました。皆様に心から御礼申し上げます。私は福島県南相馬市小高区出身で東日本大震災を経験しました。地震や津波そして原子力発電所の事故など様々な被害に遭いました。当時の私は中学三年生で、震災当日は中学校の卒業式でした。幸せだったはずの日常が一瞬にして壊されてしまいました。あの日の出来事は今でも鮮明に覚えています。一生忘れることはないと思います。現在は地元を離れ、桜の聖母短期大学の食物栄養専攻に入学し、栄養士になるために毎日勉学に励んでいます。私の現在の目標は栄養士になることです。そして、被災された方々や支援してくださった方々に恩返しができるような活動をしたいと思っています。現在私は一人暮らしをしています。私には兄と弟がいるのですが、兄は大学へ、弟は中学校へ通っています。そのため経済的に厳しい状況にあります。ですので、皆様からのご支援を大変ありがたく思っております。私はもちろん、家族一同心から御礼申し上げます。

震災に遭い、失ったものはたくさんあります。また「どうして私たちだけが…」と何回も震災を恨んだこともありました。でも今は、失ったものだけではないと思えるようになりました。それはたくさんの人との出会いがあったからです。私は震災に遭ってからたくさんの方々と出会い、その人たちに支えてもらったからこそ今の自分があると思っています。人と人との支え合いがあるからこそ幸せな生活が送れるのだと思いました。今こうして自分がやりたいことをできるのも、家族の支えがあること、そして何よりもご支援してくださる方々がいらっしゃるからこそだと思います。本当に感謝してもしきれません。直接会ってお礼を言うことをできませんが、常に感謝の気持ちを持ちながら社会に貢献できるような人間になれるよう日々精進していきます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

桜の聖母短大食物栄養専攻　二年生　⑪

木々の芽吹きに春を感じるこの頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は3月7日、晴れて桜の聖母短期大学キャリア教養学科を卒業することができましたことをここにご報告させていただきます。二年間という月日はとても短く、あっという間でしたがその中で得たものはとてもかけがえのないものばかりです。学問を修める過程で、私がなしえたものは知識だけではありません。生きていく中で必要となるだろう、人間関係についても学んだことがたくさんありました。今までとは違って幅広い年齢層の方々と関わる事が多かったこの二年間、本当に様々な考え方を持つ方々に出会いました。反面教師に出会い「この人は人の気持ちを考えないのだろうか」

「出会いたくもなかった」と私の中で黒い感情が渦巻いた時もありました。またこの黒い感情を持つ自分にも嫌気がさして自己嫌悪になった時期もありました。しかしこのような時に毎回思い出したのは、人間学で学んだ「まず相手を認めることで次に相手を受け入れることができる」という言葉でした。私の場合この言葉通り相手を受け入れることができた時、自分を認めることができました。私はこの魔法のような言葉を一生大切にしながら生きていきたいと思っています。

4月から私は東京都内でアパレルショップの店員として働きます。最初は福島市内の動物病院で内定をいただき研修を受けていましたが、研修をしていく中で自分の仕事をする上でのこだわりがあることに気がつきました。それは、元々絶対にやりたかった職でもないのにその職のために好きでもない容姿になるのがどうしても嫌という事です。私のような考えを持たない方からすれば社会人としてその考え方はおかしいと思うかもしれません。しかし私からしたら容姿は「私」という人間を表現する一つの手段なのです。私らしくいる事のできる環境の中で一度働いてみたいと思い、前から憧れていたアパレルという業界で働くことを決めました。憧れが現実となり、そこで何を思うか何を吸収するかすべて自分次第だと思います。社会人という自覚を持ち、立派に働きたいと思います。この二年間皆様からご支援いただいたお陰で、上記のような気づきを得て成長することができました。本当にありがとうございました。

桜の聖母短大キャリア教養学科卒業生　⑫

ご支援をいただいている学生との関わりから見えてきたことは、それぞれがいくつもの困難、苦労を抱えながらも皆様からの経済的な支えの上にたくましい精神力も育んでいること、そして震災と原発事故を体験したことで、いのち、生きる意味、人生の生き方を真剣に考え、自ら生きる力を育み成長している現実です。復興までにはまだまだ遠い道のりですが皆様からのお力添えを励みに今後も未来ある福島の子どもたちを応援し、寄り添ってまいりたいと思います。末筆となりましたが皆様からお寄せいただきましたご厚情に重ねて御礼申し上げますと共に皆様の上に神様が豊かにお報いくださいますようお祈り申し上げます。

感謝のうちに。

東日本大震災ともしび会実行責任　柴田香代子

事務局　熱海　紀子・齋藤　桑子